

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0045号  
護國青年會議 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成20年1月7日

# 謹賀新年



## 覚醒せよ日本民族！

皇紀二六六八年、東京は一点の翳りも濁りもない快晴の元旦を迎えた。東の空を望めば新玉の年に相応しい穏やかな黎明の風景が広がる。皇尊の御座す皇居を選擇し、静かに頭をたれて「千代に八千代に、さざれ石の巖となりて、苔のむすまで」御皇室の安寧と繁栄を願う。西の空に目をやれば冠雪した霊峰が世俗を超越したかの如く、莊嚴な姿を現し、来年の元旦もこの美しい日本の象徴を拜みたいと切望する。

近年、日本は小泉・安倍と続いた政権下で、それまで国民が心の奥底に感じていた閉塞感が打破され、闇の中から一条の光が差し込んできた。恰もその光は、GHQが意図的に啓蒙した虚空の民主主義により、日本民族の美德であった「敬神尊皇・報恩感謝」の心を亡失した日本人を叱咤するかのようであった。

祝祭日だというのに国旗を掲揚する家は見当らず、電車の中では、若者が短い足を投げ出し、お年寄りが立っただけでも席を譲ろうとしない、給食を食べる時「いただきます」を言わないし、言わせない。これらは感謝と敬愛の精神を忘れた顕著な例である。

NHKの「紅白歌合戦」の出場者とその歌曲を見ると、訳の分からないカタカナ語がずらりと並んでいる。米欧の文化の全てを否定するわけではないが、日本には美しい日本語があるだろうと言いたい。百歩譲って英語なら許容の範囲内として見逃すことができようが、支那語や朝鮮語ではそうはいかない。駅の案内板は特定アジアの文字が溢れ、道路標識に使用する自治体も出てきている。新宿には、何処の国かと思間違うような一画が存在し、五十数世帯ある筆者宅の自治会には、二世帯の支那人の家庭がある。今や我が日本は米欧文化に現をぬかしている間に、支那や南北朝鮮に侵食されようとしている。

昨年、支那に陥うことでは人後に落ちない福田康夫が首相になり、憲政史上最悪の特定アジア傀儡政権が誕生し、国家存亡の危機が目前に迫っていると云っても過言ではない。最早猶予はならない。泰平の美酒に酔い、幻想を追い求めている時ではない。目を覚まし日本民族の矜持を取り戻し、豊葦原瑞穂國の再建に心血を注がなければならぬ時は来た。

編集人・戸出蒼流

# 「偽」から「真」へ・変わるか日本の2008



品川駅で支持者の歓迎を受ける謝長延氏(中央)

昨年(2007年)の世相は「偽」一色に染まったが、本年が「真」となり、国家再興の歩みが拓かれる事を祈念しつつ以下の駄文を書き綴りました。

日本人がある種の閉塞感と倦怠感の中で、覇気も意欲も持たず、現在の境遇に甘んじている時、世界は悪しき方向へと激変しようとしている。

だが福田首相が、この激変に対応できるか否かを考えると安穩としてはいられない。福田首相が、厳しさを認識した防衛意識を持つているならば冬の北京で「春が来た」とは言わなかったであろう。

本年三月には台湾の総統選挙とロシアの大統領選挙、七月には洞爺湖サミット、九月には北京オリンピック、十一月には米国大統領選出。我が国を取り巻く政治状況に激変が起こりかねないイベントが目白押しである。

## 三月・台湾総統選挙

支那との合流を企てる馬英九が総統に選出されれば、台湾と支那の軍事力が合体して日本を標的とするだろう。そうなった時、我が福田ポン助総理は何とのおたまのたろうか、まさか「日本も仲間に入れてください」などとは言われないが、悪い初夢にならないければ良いのだが。昨年十二月二十八日、北京で「日中関係に春が来た」とはしやぎまくっていた総理のことだから何を言い出すか分からない危うさがある。日本国民の一人として、親日家の謝長延民進党候補の当選を切望する。

## 七月・洞爺湖サミット



サミット会場のウィンザーホテル

福田康夫が日本国内閣総理大臣として、サミットに臨むなら相当な決意と覚悟が必要である。サミットは地球環境問題が最大のテーマとなるであろうが、日本にとって最も

重大なことは北方領土問題である。北海道で開催される今回のサミットは、ロシアの無法を世界に知らしめる絶好の機会である。中立条約を一方的に破棄し、火事場泥棒の如く北方領土を略奪して六十二年間に亘り軍事占有しているロシアに対して、首相は堂々と奪還を宣言すべきである。

仮にロシア側が領土問題を論じることを拒否するならば、ロシア一行は木賃宿に宿泊させるか野宿させてやれば良い。少なくとも、それくらいの意地とロシアに対する日本国民の感情を頭にすべきだ。このサミットが北海道で行なわれるという意味を深く考慮して、サミットを単なる政治ショーとして終わらせてはならない。

## 八月・北京オリンピック



最悪の反日国家、世界の疫病神、人権蹂躪国家、軍事優先国家等々支那の形容詞には事欠かない。国の内外に公害を撒き散らし、空気も水も劣悪で、自分に不都合なことは一切認めない傲慢な支那が、オリンピックを開催するなど片腹痛い、参加する以上、日本選手への応援は惜しまない。だがしかし、陸上競技のように速さを競う測定競技ならいざ知らず、体操のような判定競技では不当なジャッジが下される恐れがある。例えば谷亮子選手が支那の選手を投げ飛ばし「内股一本！」となるところを「効果」にされたり、逆に膝をついただけで「有効」とか「技あり」にされかねない。このようなストレスを抱えながらテレビを見ながらと思うと今から憂鬱でならない。上段の写真は「国境なき記者団」が勧める北京五輪ポイコット運動のポスターだが、日本政府もこの運動に賛同して北京五輪をポイコットして欲しいものである。

## 十一月・米国大統領選挙

日本にとって最低最悪のシナリオは民主党候補のヒラリー・クリントンが当選することだが、どの候補が大統領になっても米国の対日戦略や東アジア戦略は変化することとなるだろう。日本は国家存立の戦略をどう構築するのだから、自国の防衛をいつまでも米国に委ねている場合ではないが、日米の同盟関係を維持するのならまだしも、小沢

民主党党首が言う「国連中心主義」へと舵をとることになったり、福田が媚びる支那の軍門に下るようなことになったら、早晚日本は自由世界の孤児となってしまうだろう。斯くの如く日本を取り巻く状況を概観すると国家存立と再興のために真の政界再編は不可欠なものとなる。

自民党はカルト教団創価公明と手を切り、河野洋平や加藤紘一、古賀誠、山崎拓、二階俊博等を除名した後、民主党にもいるであろう憂国の士と共に真正保守政党の道を歩むべきである。それこそ国民が望む真の政界再編である。

欧米の価値観に惑わされることなく、先人が築き上げた誇り高き文化、伝統を継承し、美しい自然を守る。家族の絆を大切にし、思いやりといたわりのある美しい日本を作るために精進いたします。

本年も宜しくお願い申し上げます。 編集人・戸出蒼流



最低最悪の候補者 ヒラリー・クリントン